

第 32 回 岩手県環境審議会水質部会 会議録 [要旨]

1 開催日時

令和元年 11 月 18 日 (月) 10 : 00~10 : 45

2 開催場所

盛岡市勤労福祉会館 3 階 研修室兼展示室

3 出席者

【委員 (敬称略、50 音順)】

生 田 弘 子  
石 川 奈 緒  
伊 藤 歩 (部会長)  
後 藤 均  
山 崎 朗 子

【特別委員 (敬称略、50 音順)】

奥 村 浩 信 (代理 : 今 野 昭 男)  
真 鍋 郁 夫 (代理 : 長 尾 親 子)

【事務局員 (岩手県環境生活部環境保全課)】

環境保全課総括課長	佐々木 秀 幸
環境調整担当課長	吉 田 雅 則
主任主査	阿 部 なるみ
主 査	吉 田 幸 司
技 師	本 村 華 子
主 事	川 口 拓 実

4 議 事

(1) 審議事項

世増ダム貯水池に係る水質環境基準の類型当てはめについて  
(資料 1-1、資料 1-2、資料 1-3 により事務局から説明)

○伊藤部会長

ありがとうございます。ただいま、事務局から説明がありましたが、質問、意見等ございましたらお願いいたします。

○伊藤部会長

ダム上流の瀬月内川と雪谷川の 2 つの河川の全窒素と全燐がどのくらいか、データがあれば教えていただければと思います。

○事務局

上流の瀬月内川と雪谷川では現在も常時監視をしており、直近の平成 30 年度の速報値ですと、瀬月内川で BOD の 75%値が 0.8mg/L となっております。平成 29 年度が 0.9mg/L であり、BOD につ

いては良好な値となっております。瀬月内川では、全窒素と全燐についての水質データは集めておらず、情報はございません。雪谷川は、平成 30 年度の速報値ですと、BOD の 75%値が 1.0mg/L、全窒素の年平均値が 1.2 mg/L、全燐の年平均値が 0.032mg/L となっております。

○伊藤部会長

世増ダム貯水池の水質は、河川の水質の影響を受けているということでしょうか。

○事務局

はい。

○生田委員

ただ今、瀬月内川及び雪谷川の全燐の過去の数値を教えてくださいましたが、経年でデータを取っているのでしょうか。

○事務局

測定している項目については、経年でデータを取っております。

○生田委員

特に変わりなく推移しているということでしょうか。

○事務局

はい。

○伊藤部会長

資料 1-1 の 14 頁の達成期間に、全燐については段階的に暫定目標を達成しつつと記載されており、Ⅲ類型の環境基準の 0.03mg/L を超えるが暫定目標としたいということかと思いますが、段階的に暫定目標を達成しつつ、環境基準の可及的速やかな達成というのは、暫定目標の 0.038mg/L を達成していくのか、環境基準の 0.03mg/L を達成していくという意味のどちらで捉えればよろしいでしょうか。

○事務局

まずは、令和 6 年度に 0.038mg/L を達成することを目標として、その後暫定目標を必要に応じて見直しをかけながら、将来的に 0.03mg/L を目指すということです。

○生田委員

資料 1-1 の 10 頁の将来の水質予測ですが、畜産系の牛と豚について、これから令和 6 年度にかけて汚濁源として頭数が増えていくという予測でしょうか。

○事務局

牛と豚については、現況値に年平均伸び率を適用して、令和6年度の予測をしています。

○石川委員

全燐について、達成していくためにどういったお考えをお持ちでしょうか。

○事務局

発生源については、汚濁負荷量として土地系の山林と家畜系の鶏と豚が、大部分を占めていることを資料1-1の11、12頁に記載しております。山林の面源負荷については削減のしようがありません。養鶏業については、軽米九戸地域で盛んですが、定常的な排水が発生しないため水質汚濁防止法の規制対象となっておりません。そのため、鶏糞等の家畜排せつ物の流出を防ぐため、野積み等の不適正処理に係る指導の徹底を図ることが出来ることと考えております。

○生田委員

家畜排せつ物の野積みは、禁止されていますよね。

○事務局

はい。

○生田委員

もしかしたら野積みがされているかもしれないということでの指導の徹底ですか。

○事務局

違反している事業者がいましたら、徹底して指導をするということです。

○真鍋特別委員（代理）

環境生活部と農林水産部が連携して対応されており、今回の資料もその結果だと認識していません。御指導をよろしくお願いいたします。

○事務局

はい。適用されると考えられる家畜排せつ物法と廃棄物処理法等に基づいて、違反のないよう指導していくこととなります。

○伊藤部会長

ほかにございませんでしょうか。特になければ、世増ダム貯水池に係る水質環境基準の類型当てはめについて、事務局の案でよろしいでしょうか。

○各委員

はい。

○伊藤部会長

それでは、事務局の案のとおり決定いたします。次に議事の2番目のその他として、事務局から何かございますか。

○事務局

委員の皆様には以前御連絡しました、ヘリウムガス供給不足による平成31年度公共用水域水質測定計画の一部が未達となる見込みについて説明させていただきます。今年度に入り、世界的なヘリウムガスの供給不足によって、本県の環境保健研究センターを含む県内の検査機関では、分析に使用するヘリウムガスの確保が難しくなっている状況です。平成31年度公共用水域水質測定計画については、平成31年1月28日に開催した第31回岩手県環境審議会水質部会で御審議いただき作成したところですが、ヘリウムガスの不足により計画で定めた測定項目の一部で測定回数未達となる見込みですのでお知らせします。測定回数未達となる見込みの測定項目ですが、ガスクロマトグラフィー質量分析法による分析項目の一部です。例えば、ジクロロメタン及び四塩化炭素といった揮発性有機化合物、農薬の1,3-ジクロロプロペン並びにベンゼンといった項目となっております。

○伊藤部会長

ありがとうございます。ただいま、事務局から説明がありましたが、質問、意見等ございましたらお願いいたします。

○石川委員

ヘリウムガスの供給が回復するまで、どのくらいかかるかの目途は付いているのでしょうか。

○事務局

他県や環境省にも確認していますが、以前のとおり回復する目途は現在のところ不明です。

○石川委員

他県も同じ状況にあるといった認識でよろしいでしょうか。

○事務局

地域差がありますが、他県でも同様の状況になっている自治体が多数ございます。

○伊藤部会長

ほかにございませんでしょうか。続きまして、委員の皆さまから何かございますでしょうか。

○委員

特にありません。

○伊藤部会長

それでは、本日の議事は以上をもちまして終了とさせていただきます。御協力ありがとうございました。